2022年度　社会福祉法人あゆみの会

オープンスペース‘AYUMI’事業報告

（生活介護事業・就労継続支援事業B型・日中一時支援業・短期入所事業）

久永　洋

【生活介護事業】

・新規利用者　3名（奈良西養護学校卒業生1名、他事業所からの異動2名）

・退所利用者　なし

軽作業班

●利用者　13名（うち1名就労継続支援事業B型）

職員　　 5名（パートタイム勤務も含む）

例年通り作業活動においては、内職作業を中心に日々の活動を実施する。フロアのレイアウトを変更しながら、環境調整しクールダウンスペースや個別スペースを確保しながら作業や活動を行う。また、内職以外にも精米作業や油取り生活等への作業に取り組み、余暇活動やグループ活動を組み合わせながらメリハリある活動を実施した。

手工芸

●利用者　11名

職員 6名（パートタイム勤務も含む）

手漉き紙を中心に活動を実施する。引き続き、手漉き紙商品やフェルトボールの作成を行い、職員と利用者の作業スキルの向上が見られた。また、外部販売への機会も増え商品販売への意欲が感じられた。

引き続き、集団で過ごすことが難しい利用者には、環境調整を中心に個別のスケジュールを組み立てながら、集団活動と個別活動のバランスを図った。午後からはダンスやリラクゼーション等を取り入れ、それぞれのペースを大切にしながら過ごせるよう活動を実施した。

園芸

●利用者　9名

職員　　5名（パートタイム勤務も含む）

内職作業が増えたこともあり、内職作業を中心に活動を実施する。内職の状況に応じながらではあるが、畑へ出ての栽培作業を行ったり、収穫した野菜の試食会をしたりと園芸作業にも取り組む。例年よりも余暇活動の機会を多く取り入れながら、みんなで楽しむ時間と作業を行う時間とメリハリを意識しながら、活動を実施した。

ワーク

●利用者　8名

職員　　5名（パートタイム勤務も含む）

　主に個別のスケジュールを活用し、日中活動を行う。また、作業内容や活動内容の幅も広げスケジュールを利用者自身で計画していくことやチョイスボードで利用者自身が活動を決める機会も増やしていった。コミュニケーションカード等の使用も昨年に比べると機会も多くなり活用する姿が見られた。運動や自立課題、ペットボトル缶つぶし、内職、ポスティング等幅広く活動を行い能動的に取り組む姿があった。

ジョブ

●利用者　5名

職員　　4名（パートタイム勤務も含む）

　ジョブ班結成2年目ということもあり、作業や活動内容もある程度構築され、個別の作業と活動（自立課題やウォーキング等）やグループ作業と活動（内職作業や音楽活動等）に取り組む。昨年度よりも、利用者が能動的に取り組んでいる姿もあり、選択や決定する機会も多く見られた。1年目よりもスケジュールやトークン、コミュニケーションや視覚支援を入れながら、作業や活動の充実を図った。

【就労継続支援事業B型】

・新規利用者　1名（奈良西養護学校卒業生1名、）

・退所利用者　なし

秋篠パン工房

●利用者　13名（うち1名軽作業班所属）

職員　　 6名（パートタイム勤務も含む）

　コロナウイルスの関係で引き続き、収入の減少を受けながらも新商品の開発や販売のアイデアを出しながらパンの製造、販売を行う。また年度途中からは、ホテルの注文も中止となりさらに難しい状況となった。ただ、昨年度より、定期的なご家族への注文販売や奈良市市役所内デイリーヤマザキへのパンの納品、外部販売（バザー等）で売り上げ改善を図った。

　利用者の出勤率は例年よりも高く、利用者自身のスキルアップや働く意欲の向上も感じられ、前向きに取り組む姿勢が伺えた。

【日中一時支援事業】

主に一般就労者が利用する事業となり、仕事のない日の来所や相談事がある時等、利用者に合わせた事業を実施した。コロナウイルスの関係で通所を制限したり、通所を控えたり等で事業が難しい面も見られたが、通所の際は利用者がリフレッシュ出来るよう慣れ親しんだ職員や久々に会う仲間とふれあう機会とした。

【短期入所事業】

　コロナウイルスの関係で緊急対応のみの実施となる。（曜日不定）緊急対応としてもレスパイト等を要するものに限定し、感染対策をしながらの事業の実施となった。他施設の短期入所事業受け入れが難しいといった状況でご家族や利用者にとっては厳しい面があったが、緊急対応を受けることでご家族の介護負担軽減や自宅以外でのショートステイの経験、体験に繋げた。

【総評】

　2022年度も、新型コロナウイルスの影響で、時短通所や自主休業等をしなければならない現状があった。クラスター感染にはならなかったものの、新型コロナウイルスの感染者も確認され、集団での抗原検査を実施することも多々あった。奈良市クラスター対策室との連携等については、コロナ禍3年目ということもあり、書類の準備や初動の対応、ご家族や各関係機関への連絡等、役割分担しながら協力して取り組めるようになり、大きな混乱はなく対応できた。

作業や活動においても、昨年度同様に各班活動を中心に、集団で集まるプログラムの自粛、各班活動場所での昼食、余暇活動の制限等を行い、活動場所や車両の消毒、手指消毒等出来る限りでの感染対策を実施し感染拡大防止に努めた。自粛は続く形となったが、ワクチン接種もあり、少しずつ各班で料理プログラムや外出プログラムも取り入れ利用者の楽しみに繋げていった。感染者数の動向を見ながら、その都度作業や活動を考え、新しいアイデアを含め様々な工夫をする中で柔軟に対応し、利用者が楽しめる機会を多く創造していたように思う。

職員については、それぞれの班での活動や作業が中心となってしまい、情報の共有や連携が難しかった。2班の班長と主任を配置したものの、それぞれの班の事情もあり、職員間でのコミュニケーションを深めることに課題があった。ただ、コロナウイルス罹患等で職員の欠勤があった場合には、お互いの班の状況を確認、連携しながら職員間で助け合い、日中活動を行った。普段、活動することの少ない班ということもあり、職員自身の幅を広げるきっかけとなったように感じた。

課題としては、職員研修の機会が少なく、新人研修を実施するもコロナ感染者が確認されると中止になってしまう状況が何度かあった。少ない時間で年度末には、虐待防止研修を実施したが、理解を深めていくことを今後は続けていかなければならないと思う。また、2022年度は新しい職員を多く採用したこともあり、先輩職員を含め職員研修や情報の共有、報告、連絡、相談等に力を入れていければと思う。

以上